

## 高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日： 2006年 4月 23日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	松野亮子
連絡先・所属など	matsunoryoko@hotmail.com
調査研究・研修のテーマ	内分泌攪乱物質の法規制
研修先の機関・名称など <研修の該当者のみ>	Kent Law School, University of Kent

2. 調査研究・研修の経過

- ・ 2005年4月から6月  
国際条約の中で内分泌攪乱物質問題に対してどのような対応がなされているかを調べた(論文の第4章)。調査内容は2001年に締結された、残留性有機汚染物質に関する2001年ストックホルム条約と、北東大西洋の海洋環境保護を目指したOSPAR条約(1992 Convention for the Protection of the Marine Environment of the North-East Atlantic)である。
- ・ 2005年7月から12月  
予防原則を取り入れた対応が環境ホルモンの規制には必須であることを示すために、これまで環境ホルモンについてわかっている科学的根拠について調べた(論文第2章)。この章の構成は1.環境汚染物質および有害性とは何か、2.環境ホルモン作用を引き起こす可能性がある物質、3.現行の法規制の限界、4.生体に対する環境ホルモンの影響
- ・ 2006年1月から3月  
第2章の書き直し
- ・ 当初の研究計画では4月末には論文完成の予定だったが、計画に遅れが出ており、まだ論文は未完成であるが、現在、9月末の完成を目指している。

3. 調査研究・研修の成果

・ 昨年末に、とりあえず、イントロと結論部分を除き、論文の下書きが一通り終わりました。全体像が見えてきたところで、NGOグリーンピースの研究所の研究者と話したり、また、Environment Agencyの化学物質政策担当者に会ったりして、ようやく私なりの結論が見えてきました。

- ・
- ・ 2月にKent Law Schoolのセミナーで『REACHとEUにおける環境政策の策定』というテーマでプレゼンテーションをやりました。このプレゼンテーション用のペーパーにもう少し手を入れれば、雑誌に投稿できるレベルのものになると思うので、論文が終わり次第、そちらに着手する予定です。
- ・

#### 4. 対外的な発表実績

- ・ 残念ながら、まだ、学会レベルでの発表は行っていません。ただ、この9月にChartered Institution of Water and Environmental Managementの年次総会が開催されるので、そこでとりあえず発表したいと思っており、先日論文の要約を送ったところです。来月中旬ごろに発表が可能かどうか連絡があることになっています。

#### 5. 今後の展望

これが、私が PhD を始めてからの最大の難問かもしれません。今まではひたすら、論文を書くためのリサーチ三昧の日々でしたが、論文に終わりが見え始め、これが終わったらどうするか、を真剣に考えなければならないことは日々痛感しています。この PhD を始めることにしたのはただ研究がしたいためでなく、研究したことを基盤に世の中を少しでも変えていくために私なりにできることをやるためです。今回の助成応募の際に、研修の成果をどのように活かしたいかという問いに対し、「現行の環境汚染物質の規制法の弱点を検証し、よりよい環境汚染防止法について提言できるほどの実力を身につけ、それを最大限に活かし、内分泌攪乱物質を含めた様々な環境汚染物質のより厳しい規制に向けて尽力したい。予防原則に基づく環境汚染物質規制法の改正に向けて、論文発表その他の手段を通じて提言を行っていききたい。いずれは、POPs条約よりも拘束力のある国際条約を作り上げていくプロセスに参加したいと強く思っている」と答えたのですが、問題はこれをどう実現するかです（それに、法律だけあっても、実際にそれが守られなければ意味がありませんので、制定された法律を以下に施行していくかも大きな課題です。現に EU ではきちんと施行されていない EU 指令の例は枚挙に暇がありません）。私の目標と貴財団の目的が一致したためにいただくことのできた助成金ですので、何が何でもせっかく蓄えた知識とリサーチ力を世の中に還元していきます。これから、それが可能になるような就職先を探さなければなりません、これに関しては模索状態です。考えられる選択肢としては

- 大学のポスト・ドクのポジションを獲得して、もしくは教員として、化学政策関連の研究を続ける(学生の身分だと、NGOなどにコンタクトしても、相手にされないことが多いので(というか、返事をもらえるのは稀です)、プロの研究者としてのポジションが早くほしいです)。
  - 環境保護団体の研究員になる。
  - 国際機関で化学物質政策に携わる。
- ・これから、論文の仕上げと平行して、私のヴィジョンが実現できる職探しも行っていきます。

#### 高木基金へのご意見